

総合調整会議の概略（2010.7.7）

日 時：平成22年7月7日（水）9：00～10：30

場 所：栗東市役所4階傍聴者控室

出席者：市長、副市長、教育長、部長等

1. 市長の指示事項

[市長]

・今はダブル選挙の最中ということで、対外的にも公式行事等も少ないことから、日常業務もはかどるのではと思うところだが、最近よく目にする不適切事務処理等の事態が起こらないよう十分注意してほしい。

・本市の最大の課題である財政問題については、今年度中にどのようにしていくか今から十分な準備が必要なところだが、その一つが本日の報告事項にもある行政評価だと思う。これまで財政再構築プログラム等を実施してきたが、今般の社会情勢等によりまだまだ厳しい状況がつづいており、セーフティネットを維持しつつも、なお一層の事業の見直しが必要であると考えているので、その成果が出るように今から準備をお願いする。

2. 審議事項

国・県要望について

政策秘書課長から説明

・前回整理した国・県要望の中から、市の重点要望項目をどれにするか決めたい。事務局としては新幹線問題関連と、昨年度にも要望している項目及び今年度の市長会要望項目について重点要望としてはどうか考えている。

[市長]

・暴力団排除条例については、決議までしているので入れておかなくてもよいが。

[議会事務局長]

・入れておいたほうが良いのでは。

[健康福祉部長]

・重症心身障がい児通園施設の建設補助について、湖南4市で揃って要望している項目なので、足並みを揃える上で重点項目に挙げてほしい。

[副市長]

・昨年度の市長会要望項目で今年度市長会要望から外れている項目があるが、その理由は。

[総務部理事]

・基本的に市独自の内容のものについては、市長会の要望から外している。35人学級の実現については、実現の際の財政的負担の問題から外している。残りは新規項目を優先的に重点項目としたためである。

[政策秘書課]

- ・それでは重点項目については、上記2項目を加えた17項目ということにする。

区分：決定

3. 報告事項

行政評価の実施について

経営改革推進室より説明

- ・今般示された中長期財政見通しにおける大幅な財源不足に対応するため、今回実施する「行政評価」において、事業の重点化や、選択と集中による大胆な見直しを行い、今後策定する「新集中改革プラン」に反映し、これのもと財政健全化に取り組んでいく。

[教育部長]

- ・「総合調整会議で施策・事務事業の廃止・見直し方向を決定。継続する事務事業であっても縮小を決定」とあるが、いつ決定したのか。私の認識では、何も決まっていなと思うが。

[総務部理事]

- ・前回会議で、中長期財政見通しが赤字になっていることから、財源不足を補うためにやっていかなければならないということになったと思っている。

[教育部長]

- ・議会等との調整など短い時間の中で計画をまとめ実施していくとなるとかなりの困難さがある。もっと戦略的というか緻密なスケジュールを組んでやらないと決定したからやるといっても実際出来ないこともある。シートを作る職員にとってももっと具体的なスケジュール等を示さないと作成に窮するのではないか。書類を作るだけ無駄にならないよう戦術・戦略・フローを示してもらうことを要望する。

[総務部理事]

- ・議会には現在、中長期財政見通しで赤字であることを公表しただけで、今後その赤字解消のための対策として事業の見直しに取り組んでいることを併せて議会にも示していかないと、このままでは市として対応策がないことになるので、期間的に厳しく、原課に説明をお願いすることになるのは申し訳ないと思うがご理解をお願いしたい。

[教育部長]

- ・議会へ説明する資料は作ればいいが、その資料が実行できない資料だと後々問題になる。議会への説明が目的ではないので、実施するための計画をつくる必要がある。

[総務部理事]

- ・実施するための計画をつくるための手段として、今回行政評価への協力をお願いしている。

[議会事務局長]

- ・この資料にあがっている削減策は、基本的に明示をしているだけと考え、これをこれから原課でどう組み立てていくか考えるための手段が行政評価ということで、検討するにあたっては、もっと緻密なス

スケジュールを示してもらった必要があるということになるのでは。また、見直しにあたっては、しっかりした理由づけを原課にまかせるのではなく、企画サイドと一緒に詰める必要がある。

[総務部理事]

・それをやるための材料となるのが、今回の行政評価である。

[教育部長]

・まずどうゆう段階でどうしていくのか示す必要があるのでは。

[議会事務局長]

・予算額と決算額のように違うところから数値があげていると、比較や推移の正確な把握ができないので、十分確認すること。

[健康福祉部長]

・原課が削っていくとなると、どうしても立場上擁護してしまうことになる。

[総務部理事]

・部だけでなく全体的な立場で取り組んでほしい。詳細な説明は原課でしてもらうことにはなるが、組織として取り組むことなので、大筋のところは政策サイドで説明する。

[教育部長]

・最後は原課ということになると原課の筆が鈍る。このままでは安心して書けない。仕事しやすいように中枢で考えてほしい。

[経営改革推進室]

・今回は過去の財プロの反省の上に立って行っている。財プロのときは先に削減案を示したところ、原課から出来ない理由を示されたので、今回は最初からご相談をかけている。大きな事業については、全体的な協議を踏まえながら進めたい。

[環境経済部長]

・今回は事業をやめるかどうかのレベルの話なので、市民の理解を得るという意味で、外部の意見を伺うということが出来ないか。議会の説明後に市民説明会ということで本当によいのか心配である。

[総務部理事]

・23年度の予算組みをしていくスケジュールからいうと、外部評価を入れていくと非常に厳しくなる。

[市長]

・23年度にずれ込むとなると、赤字の出ない23年度の予算は組めるのか。

[総務部長]

・たばこ税の落ち込みなどもあり、このままだと後継プランそのものにも影響する。

[総務部理事]

・内部的なものなど出来るものからやっていくしかない。

[市長]

・22年度中の短期に実施するもの、23年度に実施するものと分けてやってはどうか。

[総務部長]

・見直しのプランを出してもらって、まず22年にできるものを実施し、引き続き23年には市民に影響

を与え、説明等を要する事業について見直していったらどうか。

[市長]

・シートの作成にあたっては、筆の鈍ることのないように。自らが自らの事業を否定する作業になるが、見直しにあたっては、組織を守るために行うのではなく、市民を守るためにやるという気持ちで取り組んでほしい。

[総務部理事]

・今年出来るものと、説明を要することから来年に持ち越すものとに整理する。今回の見直しについては、過去の財プロを合わせて、新集中改革プランとして一本化してまとめていく。

[市長]

・本日出た意見については、行財政改革推進本部や専門部会で検討してみてはどうか。戦略戦術は本部で考えたほうが良い。

[教育部長]

・もっと職員がやらねばいけないと思えるシートを作れないか。

[総務部理事]

・行革推進本部や専門部会に本日頂戴した意見を戻して、検討していきたい。

区分：了解

指定管理者の募集について

政策秘書課長から説明

・公募施設については8月23日から9月13日の間で募集するというので8月1日の広報とホームページに掲載する。また8月23日以降のホームページには、募集様式についても掲載する。

区分：了解

4. その他

[副市長]

・市の一番の重要課題である財政再建問題についての職員の危機感が無いのではないかと。市の財政状況が厳しい状況とか、市民を守る、栗東を守るということ、まず職員に把握してもらうためのソフト面を進めないと、押し付け的になってしまうのではないかと。また市民にも市の現状を報告する必要があるのではないかと。この状況を知っているのはこのメンバーだけという感じがする。総合調整会議だけでなく、行革推進本部等でももっと考えてほしい。

[教育長]

・職員は日常業務に追われていて、なかなか市の現状の把握が出来ておらず、もっと頑張ってやろうという雰囲気づくりが必要なのではないかと。

[副市長]

・緊急の状況なのだから、もっと職員の知恵を引き出すような仕掛けが必要。今の状況を乗り切る方法や、お金を生み出す方法など職員に提案させるなど、すべての者が取り組む体制を整える必要がある。足りないから切るとのことだけではだめだ。

[市長]

・中長期財政見通しを示し、市の現状を早く職員に知ってもらえば、もっと理解も深まり意識も芽生えるのではないかと。状況がわからないままでは、やってもどうかと。議会説明がまだ残っているが、早く職員説明を行ってもらいたい。あくまで市民のためにやる、我々を守るためにやるのではないということ。

以上